

## 私を成長させてくれた合唱

上越教育大学附属中学校

二年 鳥 島 夢 乃

小学校の先生になること、これが私の将来の夢だ。とりわけ、音楽の専門性を生かせる音楽専科の先生になりたいと考えている。

以前、職業を調べていた際、マイケル・A・オズボーン博士『雇用の未来』（二〇一四）の研究を目にした。今後十から二十年程度で、米国の総雇用者の約四十七パーセントの仕事が自動化されるリスクが高いという発表である。その中で、残るであろう仕事の第一位は小学校教員で、消える確率は0パーセントである。小学校の教員はAIの技術革新にも負けない重要な職業であると実感した。

私の通っている中学校は、「響く歌声の合唱」が伝統的に受け継がれている。春と秋の一年間に二回行われる校内合唱コンクールや夏の各種コンクールに出場する目的で特設された合唱部がその伝統を支えている。

私は、特設合唱部に二年連続で入り、夏休みは毎日のように練習に打ち込んでいる。「先輩のような表現豊かな歌声に追いつけ、追い越せ」「コンクールの選抜メンバーになりたい」という前向きな気持ちで、良い発声や良い表情、豊かな表現を意識して練習に励んでいる。昨年、初めて臨んだ地区大会で

は、選抜メンバーに選ばれず、悔しい思いをした。しかし、そこから心に火が付き、家でも様々な工夫をしながら練習するようになった。そして、ついに県大会では念願の選抜メンバー入りを果たすことができた。努力が報われた瞬間の達成感は、何とも言えない喜びであった。一人では決して味わえない感動、一人が活躍するのではなく一人一人の多様な声を調和してつくり上げることが合唱の魅力であると思う。

これからの未来社会を生きる私たちは、大きな変化に対応し、新たなものを生み出す能力が求められる。小学校の先生を目指す私にとって、将来の夢につながる力は合唱を通して得ることができていると実感している。

さらに、校内の合唱コンクールにおいても大きな成長を実感できるエピソードがあった。それは、今春の合唱コンクールで初めて指揮者を経験したことだ。これまで、合唱の伴奏者をやることは多くあった。しかし、指揮者という新たな役割を経験することで、学級を良い雰囲気でもとめながら、理想の音楽をつくり上げることに挑戦できた。

春の合唱コンクールに向けての練習が始まって、歌詞の内容に合った表現の仕方、発声や発音のポイントについてのアドバイスをしなければならなかった。指揮者の指示の出し方で合唱の仕上がりに差が出るため、責任を感じていた。クラス全員にやる気を出してもらうにはどうしたらよいのか、指示を出すタイミングや指示の出し方などの試行錯誤しながら着実に改善を加えていった。私の指揮者としての指示が次第にスムーズに通るようになり、クラスのみんなのやる気も高まっていった。「金賞を取る」という共通の目標に向かって進んでいると私自身が実感できたとき、合唱の質もどんどん良くなって

いった。さらに、「合唱が好き」「合唱って楽しい」ということが指揮者に伝わるくらいの表情や態度に変化していった。このことを実感するのがうれしくて、楽しくてたまらなくなった。夜、家でベッドに入っても、良い合唱にするためには明日の練習メニューをどうすればよいのかなど、頭の中をぐるぐるどめぐって、明日が楽しみで眠れなくなるほどだった。こんなに夢中になったことは初めてなのではないか。合唱の指揮者として臨んだ春の合唱コンクールは、私を大きく成長させてくれた。

指揮者を経験して得た力は、合唱でのみ発揮できたわけではなく、様々な場面で生かされたのである。私は、特設合唱部に加えて常設の吹奏楽部に所属している。私は、新体制の部活でクラリネットのパートリーターになった。指揮者を務めた経験から、みんなのやる気を引き出す方法、よりよい集団にするためのコツをパート練習のときに実践している。そのことが少しばかりはプラスに作用したのか、クラリネットパートは、先輩と後輩たちとの良い関係を保っている。また、先輩は私たちが一年生のときよりも練習熱心でどんどん上達している。この調子でいけば、来年の大会では金賞を狙えるレベルに到達できるのではないかと意気込んでいる。

このように、私の今の努力や挑戦の積み重ねは、全て未来の自分につながっていると思う。輝く未来は、突然やってくるのではなく今をいかに大切に生きるかにかかっている。そのため、今後も新たな挑戦や経験を前向きに積み重ねながら自分自身を内面から磨き続ける。そして、将来の夢である小学校の先生、信頼される素敵な先生になることに一歩ずつ近づき、夢を実現させたい。